自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202055		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム 伏古公園		
所在地	札幌市東区伏古1条2丁目3番23号		
自己評価作成日	平成23年7月15日	評価結果市町村受理日	平成23年9月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170202055&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者と日々の関わりを大切にしている。職員の意識を高める事で介護の質を上げ、入居者様の生活をより良いもの出来る様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かで広々とした伏古公園に隣接しているホームは、緑の中で人びとの活動に触れる機会が多くあり、環境に恵まれています。「安心・安全・尊厳ある生活・地域とのつながり」を理念に掲げ、毎日確認をして理念に添ったケアに努めています。歌を唄いながらの体操、園芸、ちぎり絵、おやつ作り、誕生日の方の希望食や演芸ボランティアの導入もあり、個性を大事に、活気ある生活の支援をしています。実習生の受け入れ、ホーム内研修にも力を入れなど、更なる介護の質向上を目指しています。また、要望に即して家族が宿泊できるなど、臨機応変に支援出来る体制となっています。2週間毎の往診、24時間受け入れや相談可能な協力医療機関と連携し、安心して健康管理に努めています。運営推進会議に合わせ避難訓練を行ったり、災害発生時に備えての物品等の準備、防災点検チェックを毎日実施しているなど、災害や防災に対する危機意識を強く持っているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に掲げており、毎日の申し送り時に声だし確認し理念を共有し日々の実践につなげている。	利用者の[安心・安全][尊厳ある生活][地域社会とのつながり]を理念に掲げ、毎日の申し送り時に復唱して再確認し、職員は理念を共有しながら実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しお祭りに参加している。ホーム便りを町内の方に回覧し、散歩等で、挨拶は、欠かさずするよう心掛けている。	町内会に入会して、町内の祭や伏古公園のサマーフェスティバルに参加しています。毎月発行の「ホーム便り」を町内の回覧板で回覧したり、散歩時、近所の方と挨拶を交わすなど、地域の方々と交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを回覧している。民生委員を対象にした、認知症サポーター研修に参加し協力を行った。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、意見交換を行っている。その中で、励みになる事や、今後の取り組み等の助言を頂きサービス向上に活かしている。	定期的開催しホームの運営状況、行事報告、町内行事に関しての話題など、メンバーと活発な意見交換をしています。会議後に防災訓練を実施し、訓練時にはメンバーが参加する場合があります。会議の議事録も整備しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話で相談したり、状況に応じて時には窓口に出向き報告し相談を行い協力関係を築いている。	区の保護課職員の来訪、介護保険課に出向き利用状況、退居状況などを具体的に報告相談しています。電話で相談する場合もあり、担当者の理解と協力を得ながら連携を図っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成している。内部研修を通し虐待・拘束について職員全員で、学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を作り、マニュアルも作成して内部研修をしています。事例検討も行い、身体拘束防止の正しい理解に努めています。玄関は日中開放して、外出の気配を察知した時は、さりげなく配慮をしながら支援しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様。身体拘束マニュアルを作成し職員に周知している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、事務担当者で対応し十分な説明を行い、その場で不安や疑問点を聞き納得した上で契約や解約の手続きを行っており改定時は文書で報告し承諾書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアの説明時に意見や要望を聞き利用者の連絡ノートを活用し職員全員が把握出来るようにしている。意見箱を設置している。運営推進会議の時間を利用している。	家族訪問時に会話を多くしたり、会報発送時に日々の様子を伝えたり、毎月の介護記録も家族に送るなどして、意見や要望を聞くように連携を密にしています。意見や要望は職員連絡ノートを活用して共有し、運営に反映しています。運営推進会議にも家族が出席しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の中で意見交換や話し合う場を設けている。その場で回答若しくは、後日必ず回答してもらっている。	フロア会議や全体会議に代表者が出席し、職員の意見や要望を聞き、話し合う機会を作り、運営に反映しています。個人面談も行っていて、職員が卒直に意見を云える場があり、働く意欲に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を行っている。代表者との個人面談を行っている。代表者は、現場に頻繁に足を運んでくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを図る為、年1回の研修参加を促している。毎月のフロア会議を利用し内部研修を行っている。外部研修参加後はフロア会議の中で報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市、区の管理者会議に出席し意見・情報交換を行っている。職員は外部研修に参加し同業者と交流する機会が有り事例検討会や勉強会を通じたものをケアに活かすように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を収集し不安や要望を、聞きながら、安心した生活が、送れるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分、情報を得た上で可能な物については御家族にも協力をしてもらい、必要な支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で得意な事を提供し色々な事を職員と一緒に楽しむようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族とは出来るだけ会話をし、理解をしてもらえるよう努力をしている。受診・散歩等御家族にも協力をしてもらい共にご本人を支える関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙・電話等は御本人の希望により対応している。面会時は居室で一緒に過ごせるよう配慮している。行事への参加を依頼している。	年間行事の時には、家族などに呼びかけ一緒に参加頂いたり、ホームに宿泊することもあります。来訪時は、お茶などの対応により、良好な場としての配慮をしています。また、手紙や電話での連絡を取り持つなど、馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が協力出来る機会を作り声掛け・見守りをし職員も一緒に参加し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからの交流は殆ど無いが相談等があれば対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り支援している。会議や申し送り等でも随時検討をしている。	日々の関わりや家族からの情報も得て把握に努め、意思疎通が困難な利用者には、観察を密にして、表情などから汲み取り把握しています。職員が気づいたことは申し送り時に伝達し、共有して支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の書類や御家族にも協力を得てアセスメントを行い職員全員が把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に残し、会議や毎日の申し送り等で話し合い、現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で、アセスメント・モニタリングを行い話し合い、維持出来るように作成している。	アセスメントは職員全員で行い、家族の意見も聞き、作成しています。プラン作成後は、毎日の介護日誌に実践状況を記録し、3ヵ月毎に見直しをしています。新しい利用者には、アセスメントの間は暫定的プランを作成、身体の状態変化時は、現状に即しプランの変更をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	25、26と同様			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や内容に応じて柔軟な支援やサービスを行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを依頼し楽しむ機会を設けたり利用者が安全に暮らせるよう消防・警察とも連携をとり支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し主治医を決めている。往診医に関しては、早急な対応が可能だが、受診の場合は、対応が遅くなる事もある。	2週間毎にかかりつけ医が往診、週1回看護師に来て頂き健康管理をしています。24時間対応できる医療体制が構築され、安心感に繋がっています。歯科受診の必要時には、歯科医師が往診に来て頂き治療しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を受けており、1週間の様子、経過を報告し、処置や、対応の指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は管理者・ケアマネが様子を見に行き家族、医師、看護師と相談し情報交換に努め関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応指針を作成。家族に対しては契約の段階で説明をし同意書を取っている。	重度化や終末期に向けた対応指針を、利用時に家族に説明して同意を得ています。訪問看護、24時間対応できる医療体制を整え、尊厳ある終末期に向けて、医療関係者や家族と連携を密にして支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡チャートは有るが定期的な訓練は行っていない。応急手当の訓練は不十分である為、救急救命の訓練を予定している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、地域運営推進会議でも訓練を行っている。	避難訓練は利用者も参加、車椅子利用者などの避難方法を工夫して実践しています。災害発生時のための備蓄、器具の点検も毎日行っています。運営推進会議開催日の訓練実施、協力呼びかけなど、前向きに取り組んでいます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に応じた、声掛けや、誘導を行っている。	「尊厳ある生活を大切に」を理念に掲げ、毎日理念の確認をし、声かけや誘導時にも、プライバシーや羞恥心に配慮した対応に努めています。新人職員には、研修を行って人格尊重の理解に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定出来る事は尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由時間は個人のペースで生活しているが、時には、声掛けを行う事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿って好みを尊重し、選べない人に対しては、コーディネートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせて出来る範囲で協力をお願いしている。共に食事をし、会話を楽しむよう心掛けている。	職員と利用者が、同じテーブルで和やかに食事をしています。きざみ食やミキサー食など、摂取状態に応じ配慮しています。誕生日には、利用者の希望食を提供したり、外食することもあります。栄養士によるカロリーや栄養バランス、塩分のチェックも行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を把握し食べ物、飲み物等、好みにも配慮している。利用者の状態に合わせた食事・水分を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、一部介助、全介助等利用者に合わせて支援を日々行っている。全員の口腔内の確認は、来ていない。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在下着着用者は出来る限り維持出来る様に支援している。	パット類使用者も排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握し、個人の排泄状態に合わせてトイレ誘導しています。誘導時の声かけも羞恥心に配慮して対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事(野菜)摂取で対応しているが、下剤を服用している場合もある。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回程度入れるように対応しているが、希望にも最大限応じてるようにしている。	入浴は、週2回以上を目安としていますが、一人ひとりの意向に沿って入浴が多くできる体制となっています。機能低下のため、1人介助が無理な状態の利用者には、2人介助をして、安心、安全に配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで、過ごしているが、臥床時間が、長い場合は、声掛けし、離床を促している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、本の活用、不明な点は、薬剤師への質問等で理解を深めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意、不得意を取り入れ働きかけている。レクリエーション等で楽しみ事を取り入れている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、希望に合わせて散歩をしたり、畑等の手入れを行っている。家族からの申し出で外出、外泊は実現されている。行事を通して外出の機会を増やしている。	年間行事として、買い物、外食に出かけています。ホーム周辺の散歩や畑の作物の様子を見に行くなど、戸外にでる機会を作り、外出支援をしています。車椅子使用者の外出は難しく、戸外に出る機会が少ない状況です。	公園に隣接していますので、短時間でも公園内を散歩して、気分転換や生活の活性化を図ることが望まれます。ボランティアや家族などの協力を得て、外出支援することも今後の課題として期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ホームで管理している。外出時を利用し使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、湿温計があり、調節を行っている。カーテンで光を調節したり、外の景色を楽しめるよう、工夫をしている。	共用フロアには、利用者の作品や写真が飾られ、心が和む雰囲気になっています。窓からの風景は、公園の緑や人の動きが見え、快適に過ごせるフロアとなっています。車椅子でも利用しやすい洗面台や浴室の手すりなど、適切に設置され、居心地良く生活できるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、談話をしたり、思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんだ物を置いており個人に合わせた空間作りをしている。	居室の入口には、木の表札が掲げられ、居室内には、使い慣れた家具や調度品などが持ち込まれ、馴染みの品々の中で居心地良く過ごせる工夫をしています。家族の写真なども飾られ、一人ひとりが自分らしい居室として、安心して過ごせるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	解りやすく内部の場所を表示している。利用者の状況に合わせて自立を見守り、出来るような事は、機会を作る等、工夫をしている。		